

## インフルエンザ Q&A

Q インフルエンザワクチンを接種すればインフルエンザにかからないのですか？

A インフルエンザワクチンの阻止率（インフルエンザにならない率）は大人で50～70%、13歳未満の子供で30～60%と考えられています。ですからワクチン接種をしてもインフルエンザにかかる可能性があります。

Q ワクチンを接種してもインフルエンザにかかるのなら接種しなくてもよいのではないですか？薬もあるのでかかってから薬を飲めばよいのではないですか？

A インフルエンザワクチンを接種する目的は、インフルエンザ脳症やインフルエンザ肺炎などの重症な病気にならないことなのです。インフルエンザワクチンによって脳症・肺炎などの重症化は80～90%が阻止されると考えられています。インフルエンザはいったん重症化しますと薬が効きにくく命にかかわってきます。ですので、たとえインフルエンザにかかったとしても重症化しないためにワクチンの接種が重要と考えられています。

Q インフルエンザワクチンはどのくらい効果が持続しますか？

A だいたい6か月程度、有効であると考えられています。ですから10月に接種しますと翌年の3月くらいまでは有効と思われる。

Q ワクチン接種をしてからどれくらいで効果があらわれますか？

A インフルエンザワクチン接種後おおむね2～3週間で抗体ができると考えられています。

インフルエンザの流行は例年12月中頃から2月初めごろですので、おそくとも11月末頃までに接種をすることが望ましいと考えられます。

Q 現在12歳ですが、間もなく誕生日が来て13歳になりますが、2回接種が必要ですか？

A 13歳未満はインフルエンザ罹患歴が少ないことやワクチン接種の年数が少ないことから、確実に抗体をつけるために2回接種が望ましいと考えられています。接種時期に余裕があれば13歳直前の場合は少しまって1回接種にしてもよいですし、あるいは12歳で1回、13歳になってからもう1回接種しても問題はありません。また2回接種の方がわずかですが、効果が高まると考えられています。